

第2回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー
伊達市ダイアログセミナー

2012年2月25(土)、26日(日) 於

25日:伊達市保原市民センター(024-575-4166, http://9199.jp/phone_page/06971137/)

26日:伊達市保原スカイパレス(0120-44-2257, <http://www.doko.jp/search/shop/sc10419130/>)

発起人

国際放射線防護委員会(ICRP)

協力と援助

伊達市、福島県、放射線安全フォーラム、AFTC たむらと子どもたちの未来を考える会、
福島のエートス、福島医科大学、ベラルーシ緊急事態省チェルノブイル部、経済協力開発機
構・放射線防護公衆衛生委員会、フランス放射線防護・核安全研究所、
ノルウエー放射線防護局、フランス原子力安全局、

宿泊

福島リッチモンドホテル(<http://www.richmondhotel.jp/>)

〒960-8053 福島県福島市三河南町1-15(福島駅西口)

TEL 024-526-1255 FAX 024-526-1266

同時通訳

ディプロマツト社(平野加奈江、町田公代)

目的

国際放射線防護委員会は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作る責任があることを示している。

この観点に基づき、国際放射線防護委員会は、2011年秋に、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウエー、フランスの関係団体からの代表が、一堂に会して、福島原発事故の影響をうけた地域の長期の回復に対する挑戦の方策を見つけるためのダイアログセミナーを行った。

第一回のダイアログセミナーは、2011年11月26日と27日の両日にわたり、福島県庁の会議室でもたれた。参加者は、影響を受けた地域における生活の安全、産物の品質安全、福島以外の地域との連帯、の重要性を確認した。さらに参加者は、事故がもたらしたものを評価し、影響をうけた地域での生活からうける放射線被曝を低減するために必要な放射線防護の文化を醸成することの重要性を確認した。

第二回の伊達ダイアログセミナーの目的は、まず伊達市においてこれまでに達成された放射線状況の改善についての報告を受け、住民のさらなる生活改善のためのその改善への道について現段階での障害と、になるものを討論する。

今回のセミナーは、自由な対話と活発な討論を確保するため30名程度の討論者に、一般の方々の傍聴も加えて構成される。本セミナーにおいて、国際放射線防護委員会委員は、対話の仲介役を果たす。対話のまとめと勧告は、伊達市、福島県、日本政府におわたしする。なお、本会合は、日本語と英語で行う。

プログラム

第1日目 (2月25日)

(市：プロジェクター、スクリーン、ハンドマイク3本、水ペットボトル150本)

(平野、高江洲：同時通訳機器の設定、イヤフォン100台)

(会場：大机+椅子席50、傍聴席椅子50、進行係2名+通訳2名が座る机・椅子)

13:00-14:00 開会

- Jacques Lochard 氏、仁志田昇司氏、田中俊一氏による歓迎の挨拶
- 国内参加者による自己紹介 (名前、専門、経験) (各1分)
- 外国参加者による自己紹介 (名前、専門、チェルノブイル関連経験) (各1分)

14:00-15:20 セッション1：伊達市の取り組み

- 伊達市における復活への取り組み
復活への取り組み 伊達市長仁志田昇司 (10分)
- 伊達市のコミュニティーの取り組みと連携
諏訪野町内会々長 松田秀樹 (10分)
放射能からきれいな小国を取り戻す会々長 佐藤惣洋 (10分)
- 伊達市の教員による取り組み
上保原小学校長 宍戸正幸 (10分)
- 伊達市の医療分野での取り組み
伊達市医師会 中野新一 (10分)
- セッション総合討論とまとめ (30分)

15:20-15:40 休憩

15:40-17:40 セッション2：生産者と消費者をむすぶ

- 農家の取り組み：果樹農家 清野直人 (10分)
米農家 長谷川康夫 (10分)
- 生産者団体の取り組み
JA伊達みらい部長 数又清市 (10分)
- 伊達・福島の流れ・消費
コープふくしま理事長 八島博正 (10分)
- 外部の流れ・消費：
コープとうきょう 理事 河野恵美子 (10分)
全国消費者団体連絡会々長 阿南 久 (10分)
- セッション総合討論とまとめ (60分)

18:00-20:20 会食 JA伊達みらい・保原ホール

20:38 阿武隈急行で福島へ

2日目(2月26日)

(市:プロジェクター、スクリーン、ハンドマイク3本、ペットボトル150本、昼食)

(平野、高江洲:同時通訳機器の設定、イヤフォン100台)

(会場:大机+椅子席55、傍聴席椅子45、進行係2名+通訳2名が座る机・椅子)

09:00-10:45 セッション3:チェルノブイルの教訓

- ベラルーシの取り組み
 - 農産の取り組み:ヨセフ・ボデゴビッチ(15分)
 - 地域内と地域外のリスクコミュニケーション:ゾイア・トラフムチク(15分)
 - ノルウエーの取り組み
 - 取組みに対する拒否:アストリッド・リーランド(15分)
 - サーメの人々の全身計測と健康:ハーバード・トーリング(15分)
- エトスプロジェクトとコアプログラム
- 健康調査:フランソア・ロリンジャー(15分)
 - 放射線防護の文化:テリー・シュナイダー(15分)
 - セッション総合討論とまとめ(15分)

10:45-11:00 休憩

11:00-12:20 セッション4:伊達市と福島の将来にむけて

NPO活動と専門家の意見

- 福島におけるエトス活動:福島のエトス 鎌田陽子(10分)
- 飯館の再生にむけての取組み:中川恵一(10分)
- たむら市での取組み:AFTC たむらと子どもたちの未来を考える会 半谷輝己
- 復活におけるNPOの役割:安井至東大教授(10分)
- 福島再生におけるコミュニティ医療の役割:わたり病院 丹治伸夫(10分)
- セッション総合討論とまとめ(30分)

12:20-13:20 昼食(バイキング)

13:20-15:35 セッション5:伊達市をモデルとして(市、県、国+全員)

- 課題:伊達市の挑戦のためには(住民、市、県、国による問題の洗出し)
- 課題:状況の改善にむけて必要な事項(住民、市、県、国)
- 課題:地域や国レベルの協力
 - 去年11月からの変化:福島民報 早川正也(5分)
 - 去年11月からの変化:福島民友 菊池克彦(5分)
 - 去年11月からの変化:NHK 藪内潤也 or 筒井宏治(5分)
 - 県から伊達市に:生活環境部環境回復推進監 小牛田政光(10分)
 - 国から伊達市に:福島県環境再生事務所々長 森谷賢(10分)
 - 伊達市から県・国に:伊達市長 仁志田昇司(10分)
 - 外から見ると:田中俊一(10分)
 - 外国の視点:テッド・ラゾ(10分)
 - セッション総合討論とまとめ(70分)

15:35-15:50 休憩

15:50-16:30:まとめと提言

関係者による論点のまとめと提言のアウトライン

予定参加者

フランス (4)

Thierry Schneider (テリー・シュナイダー)、フランス核防護評価センター副所長
Isabelle Mehl-Auget (イザベラメーア・アウジェ) フランス核安全局 (ASN) 副所長
Jean-François Lecomte (ジャンフランソワ・レコメテ) 放射線防護核安全研究所
François Rollinger (フランソワ・ロリンジャー) 放射線防護核安全研究所

ベラルーシ (2/6)

Zoia Trafimchik (ゾイア・トラフィムチク)、チェルノブイル原発災害問題ロシア・ベラルーシ情報センター

Iossif Bogdevitch (ユセフ・ボグデビッチ)、ベラルーシ科学院土壌・農芸化学研究所
ノルウエー (2/8)

Astrid Liland (アストリッド・リーランド)、ノルウエー放射線防護局
Haavard Thorring (ハーバード・トリング)、ノルウエー放射線防護局

日本 (41/49)

仁志田昇司 (Shoji Nishida)、伊達市長

田中俊一 (Shunichi Tanaka)、NPO 放射線安全フォーラム

半澤隆宏 (Takahiro Hanzawa)、伊達市市民生活部

松田秀樹 (Hideki Matsuda)、諏訪野町内会々長

佐藤惣洋 (Souyou Satou)、放射能からきれいな小国を取り戻す会々長

宍戸正幸 (Masayuki Shishido)、上保原小学校長

中野新一 (Shinichi Nakano)、伊達市医師会

清野直人 (Naoto Seino)、伊達市果樹農家

長谷川康夫 (Yasuo Hasegawa)、伊達市米農家

数又清市 (Seiichi Kazumata)、JA 伊達みらい部長

八島博正 (Hiromasa Yashima)、コープふくしま理事長

野中俊吉 (Shunkichi Nonaka)、コープ福島理事

河野恵美子 (Emiko Kouno)、コープとうきょう理事

阿南 久 (Hisa Anan)、全国消費者団体連絡会々長

小牛田政光 (Masamitsu Kogota)、福島県生活環境部環境回復推進監

小山吉弘 (Yoshihiro Koyama)、福島県生活環境部原子力安全対策課長

片寄久巳 (Hisashi Katayose)、福島県生活環境部原子力安全対策課

小川武 (Takeshi Ogawa)、福島県企画調整部エネルギー課

森谷賢 (Masaru Moriya)、環境省福島環境再生事務所長

平岡英治 (Eiji Hiraoka)、原子力災害現地対策本部 副本部長

菊田逸平 (Ippei Kikuta)、原子力災害現地対策本部

渡邊桂一 (Keiichi Watanabe)、原子力災害現地対策本部

丹治伸夫 (Nobuo Tanji)、わたり病院

斎藤紀 (Osamu Saito)、わたり病院

宮崎真 (Makoto Miyazaki)、福島医科大学放射線科

鎌田陽子 (Yoko Kamata)、エトス・イン・福島

小針かなえ (Kanae Kobari)、エトス・イン・福島

中川恵一 (Keiichi Nakagawa)、東京大学医研究科

水野義之 (Yoshiyuki Mizuno)、京都女子大学

半谷輝己 (Teruki Hangai)、AFTC たむらと子どもたちの未来を考える会
安井至 (Itaru Yasui)、国連大学名誉副学長

岡敏弘 (Toshihiro Oka)、福井県立大学経済学部教授

先崎温容 (Yoshinaka Senzaki)、福島県議会議員

多田順一郎 (Junichiro Tada)、放射線安全フォーラム

藪内潤也 (Jyunya Yabuuchi)、NHK報道局科学文化部

早川正也 (Masaya Hayakawa)、福島民報新聞

菊池克彦 (Katsuhiko Kikuchi)、福島民友新聞

菅野篤司 (Atsuji Kanno)、福島民友新聞

高原省五 (Shogo Takahara)、日本原子力研究開発機構安全研究センター

国際放射線防護委員会 (ICRP) (6/55)

Jacques Lochard (ジャック・ロシャール)、フランス放射線防護・核安全研究所

Chris Clement (クリス・クレメント)、ICRP 事務局

佐々木道也 (Michiya Sasaki)、ICRP 事務局

甲斐倫明 (Michiaki Kai)、大分看護科学大学

本間俊充 (Toshimitsu Honma)、日本原子力研究開発機構安全研究センター

丹羽太貫 (Ohtsura Niwa)、京都大学名誉教授

経済協力開発機構 OECD (2/57)

Ted Lazo (テッド・ラズ)、国際経済開発機構原子力機関放射線防護部門

Hans Riotte (ハンス・リオッテ)、国際経済開発機構原子力機関放射線防護部門

同時通訳 (2/59)

平野加奈江 (Kanakano Hirano)、ディプロマット

町田公代 (Kimiyo Machida)、ディプロマット

県内の取り組み事例、課題などが報告されたセミナー



汚染解消へ実態調査

国際放射線防護委

意見交換、きょう提言 福島

東京電力福島第一原発事故を受けた国際放射線防護委員会（ICRP）による現地意見交換会「福島原発事故による長期影響を受けた地域の生活回復のためのダイアログセミナー」は二十六日、福島市の県庁で始まった。除染活動の実態、県民の意識などを基に、本

県の現状、文化に寄り添った視点で、被ばく線量限度の解釈など汚染地域の解消に向けた提言をまとめる。（2面に関連記事）ICRPは汚染地域解消には地域の行政、住民、専門家が主体的かつ一体となって関わる重要性を唱えており、本県の現場の声を聞き、生活改善の方策を探るのが狙い。ICRP委員、フランス、ベルギー、ノルウェーの放射線研究機関の専門家、県内の関係者ら

約四十人が参加した。初日は事例発表が行われた。避難区域を抱える菅野典雄飯舘村長と遠藤雄幸川内村長が帰村に向けた村の取り組みなどを発表したほか、伊達市職員が除染活動の実態、課題などを報告した。食品、医療、報道など各分野からの発言もあった。二十七日はチエルノブイリ原発事故の教訓を学び、初日の事例発表で出された論点を基に提言をまとめる。提言は政府と県に提出する方針。

県と福島医大、放射線安全フォーラムなどの協力。ICRP第四委員長のジャック・ロシャール氏（フランス）が座長を務め、県除染アドバイザーの田中俊一氏が歓迎のあいさつを行った。